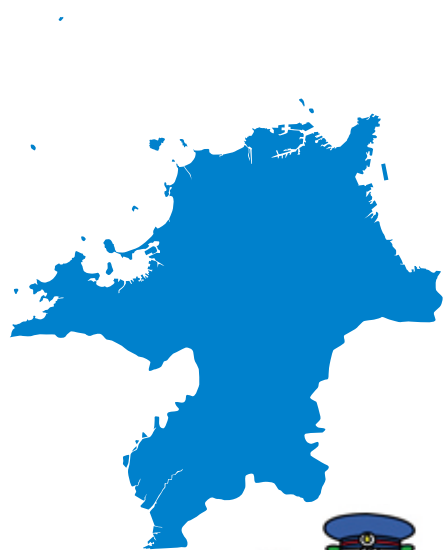


福岡県交通ビジョン
2017



「福岡県交通ビジョン2017」の策定にあたって

交通は、経済活動や県民生活を支える重要な社会基盤です。

古来、本県はアジアと我が国を結ぶ交通の要衝として発展してきました。

世界は、今、人・モノがグローバルに行き交う大交流時代を迎え、本県においても、外国人観光客やクルーズ船の寄港が大幅に増加しています。

県では、世界有数の利便性を有する福岡空港や 24 時間利用可能な北九州空港、国際拠点港湾に指定された北九州港や博多港、新幹線、高速道路といった、本県の広域交通基盤のさらなる強化に取り組み、九州・西日本とアジアを結ぶゲートウェイとしての機能を一層充実させ、大交流時代を担う拠点としての役割を果たしてまいります。



平成 27(2015) 年の国勢調査で、本県は人口が増加した数少ない県の一つとなりました。しかしながら、県内の多くの市町村では人口が減少しており、本県もやがて人口減少局面に転じると見込まれています。

人口減少に歯止めをかけ、それぞれの地域を元気にしていくためには、誰もが住み慣れた地域で働き、安心して子どもを産み育て、長く元気に暮らすことができる、そうした地域社会をそれぞれの地域につくっていく地方創生に力を入れていくことが重要です。

地域産業の活性化に必要な交通網の整備とともに、通勤・通学や買い物、通院など住民の日常生活を支える交通利便性の確保に取り組み、県内各地域の地方創生を着実に進めてまいります。

昨年 4 月に発生した熊本地震では、災害発生時の救助活動や災害からの復旧・復興に、道路や鉄道などの交通施設の重要性が改めて認識されました。

大規模災害発生時の輸送経路が確保されるよう、引き続き、災害に強い道路や橋梁、駅舎づくりを進めてまいります。

地球温暖化対策の新たな国際的な枠組みである「パリ協定」が発効し、我が国は、平成 42(2030) 年度までに、温室効果ガスを平成 25(2013) 年度比で 26% 減少させる目標を立てています。

本県としても、環境負荷の少ない社会の実現を目指し、公共交通の利用促進や地球環境にやさしい次世代自動車の普及に取り組んでまいります。

「福岡県交通ビジョン 2017」は、国、県、市町村といった行政機関はもとより、県民や交通事業者などすべての交通関係者が協働し、こうした交通施策を進めていくために策定したものです。

安全で活力ある地域社会を支える交通施設の整備が進むよう、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

平成 29 年 3 月

福岡県知事 小川 洋

CONTENTS

福岡県交通ビジョン2017

第1章 総論	1
I 「交通ビジョン」策定の趣旨 ……………	2
II 計画の性格 ……………	2
III 計画期間 ……………	2
第2章 これまでの成果と交通を取り巻く状況の変化	3
I これまでの成果 ……………	4
II 交通を取り巻く状況の変化 ……………	20
III 交通に関する県民意識 ……………	30
第3章 展開する施策	33
I 施策の体系 ……………	34
II 展開する施策の方向 ……………	35
基本方針1 ……………	35
基本方針2 ……………	40
基本方針3 ……………	46
基本方針4 ……………	53
基本方針5 ……………	60
第4章 施策の推進方策	63
I 市町村との連携 ……………	65
II 九州・山口各県との連携 ……………	66
III 交通事業者との連携 ……………	66
IV 成果の検証と新たな施策の検討 ……………	66
■ 施策目標	67
施策目標 ……………	67
■ スキーム図	70
スキーム図 ……………	70
付録	71
参考資料1 策定経過と策定体制 ……………	72
参考資料2 県交通年表 ……………	74